



## 【コラム】快適な教育空間の創出と木材利用の促進を通じた地球温暖化防止に取り組むために、松田小学校を「木の学校」にしました

■木材は、森林が吸収した炭素を貯蔵しており、特に国産材の建築物への利用を進めることは、「都市等における第2の森林づくり」として、地球温暖化防止への貢献が期待されています。

■昭和49年に竣工した松田小学校校舎を令和4年1月に、当時では公立学校として全国で4例目となる木造3階建て校舎に建て替えました。

### ○木造建築の主なメリット

- ・長期にわたり、建物自体がCO<sub>2</sub>を安定的に貯蔵する。
- ・適切な伐採→木材としての利用→再植林の好循環を確立することにより森林の若返りを図り、CO<sub>2</sub>吸収機能を維持する。・林業や地域経済の活性化。
- ・木材の温もりや香りの成分による心理的、精神的な好影響。



人工林の杉・約1,544本分のCO<sub>2</sub>蓄積量に相当します



### 松田小学校に利用した木材に係る炭素貯蔵量(CO<sub>2</sub>換算)

延べ床面積	国産材利用量 (杉、ヒノキ等)	国産材の炭素貯蔵量 (CO <sub>2</sub> 換算)	木材全体 利用量	木材全体の炭素貯蔵量 (CO <sub>2</sub> 換算)
6,284 m <sup>2</sup>	657 m <sup>3</sup>	534 t-CO <sub>2</sub>	958 m <sup>3</sup>	780 t-CO <sub>2</sub>

この表示は、林野庁「建築物に利用した木材の炭素貯蔵量の表示ガイドライン」(令和3年10月1日付け3林政産第85号林野庁長官通知)に準拠し、この建築物に利用した木材が貯蔵している炭素(CO<sub>2</sub>換算)の量を示すものです。

木材は、森林が吸収した炭素を貯蔵しており、木材を建築物等に利用していくことは、「都市等における第2の森林づくり」としてカーボンニュートラルへの貢献が期待されています。